

安心・安全の学校給食を 一自校方式を残すべき

民報
おうしゅう

読者版

発行 奥州出張所
赤旗水沢字久田62
Tel 24-2021
Fax 24-2049



奥州市教育委員会は、「奥州市学校給食施設再編整備計画」を策定しています。これに基づき（仮称）奥州西学校給食センター整備基本構想が、5月17日の市議会全員協議会において示されました。日本共産党奥州市議団は、5月16日、学校給食の実情を調査するために、自校方式で給食行っている水沢地域の常盤小学校を訪問しました。

常盤小学校からは、加藤校長に対応していただきまし施設再編計画によると、常盤た。市議団からは、瀬川貞清、小学校でも、将来、給食センターから配送される予定です。アレルギーを持つ児童にも対応

常盤小学校では、600食ほどを自校で調理・提供して

牛乳、小麦アレルギーの児童は豆乳や米粉パンなどを持参したり、アレルギー不使用のおかずを提供するなどしてアレルギーを持つ児童にも対応しています。

配膳サポートスタッフが必要に

3階建て校舎の常盤小では、給食用エレベーターを使用。現在、用務員2人と調理員が対応しています。給食センターからの配送になると配送車から

校内への運搬を担当するサポートスタッフが必要になります。加藤校長は、「以前赴任していた盛岡市の小学校では、地域の高齢者等に運搬サポートをお願いしていた。ただ、規模が全く異なりこちらは3倍ほどの児童数。人員が確保できるのか……」と話しました。

600食でも地場産物の食材を集めるのは大変

栄養教諭からは、「600食の現在でも地場産物の食材を集めるのには苦勞している。」という声が聞かれるとのことでした。

自校方式の給食施設は必要では

市内で2カ所となる給食センター整備計画のうち、今回説明された（仮称）奥州西学校給食センターは、4500食を作ることができる大きな施設となります。安心安全の地場産食材をしっかりと確保し、使用することができるとか……子どもたちの健やかな心と身体を育むためには、自校方式の給食施設は必要ではないでしょうか。



自由と平和。まっすぐつらぬく

日本共産党街頭演説

“NO WAR! ウクライナに平和を
国際世論でロシアを包囲しよう”

○日時:2022年5月29日(日) 正午

○場所:盛岡駅前

○弁士:志位和夫日本共産党委員長

いわぶち友参議院議員

吉田恭子参院選比例候補

※バスを配車します。

水沢:Zプラザアテルイ 10時出発

江刺:江刺総合支所駐車場 10時出発



食料自給率を
引き上げる政治を!



日本共産党
参議院議員
いわぶち友

5月14日

宮城県大崎市で街頭から訴え。先月の市議選で4人の市議団が勝利したばかり。市議団長の小沢和悦さんが司会。かつて副議長をつとめた佐々木元市議が応援演説。演説前には、内藤たかじさん、鎌内つぎ子市議と有機農業をやっている佐々木陽悦さんたちのお話を聞き、アイガモロボットを見せてもらいました。大崎耕土といわれ、農業が盛んな地域。資材不足、水田活用交付金の見直しの話にもなりました。食料自給率を引き上げる政治をとの要望をいただきました。